

茨城地本、新潟地本佐渡所研修を実施

茨城地本（本部長・栗秋1等空佐）は、令和8年2月4日（水）から同月6日（金）の間新潟地本佐渡駐在員事務所（所長・渡部准空尉）において、浦崎募集班長以下広報官等計10名による研修を実施した。

本研修の主眼は、佐渡島における厳しい募集環境の下、傑出した入隊者数を毎年叩き出している、佐渡駐在員事務所の基幹広報官で令和6年度陸幕長褒章受章者である伊藤曹長から、直に募集広報業務の資を得て茨城地本広報官等の資とすることである。

茨城地本研修団一行は、佐渡島への渡航に先立ち、新潟地本（本部長・小段1等陸佐）を訪問し、小段本部長及び吉澤募集課長から丁寧な歓迎を受けた。また、大間募集幹部からは、降雪による募集・採用業務への影響や部隊との連携等について懇切丁寧な説明を受けた。

佐渡所においては、渡部所長から佐渡所の概況について詳細な説明を受けた後、伊藤曹長から、予定時間を大幅に超える、募集広報に寄せる熱い思いにあふれたブリーフィングを受けた。その中で、伊藤曹長は、「一人から「パンフレットやリーフレットを配布しろ」と言われてやるのでは、自分が広報官でいる意味がない」として、「どうしたら入隊者を獲得できるか」を常に自分の頭で考え、募集対象者等とのあらゆるコミュニケーションの機会を大切にしていることが伺えた。

また、伊藤曹長は、担当する高校等の行事はもちろんのこと地域のマラソン大会や祭りなどのイベントにも積極的に参加し、様々な人々の出会いを重視していることが認められた。その際、最初から募集の話や募集対象者等にすることなく、まずは募集対象者等との信頼関係を築いた後に、募集の話や切り出していることが印象的であった。

本研修に参加した茨城地本の広報官等からは、伊藤曹長の募集広報に向き合う真摯かつプロフェッショナルな姿勢に直に触れることで、自分も積極的に募集広報にチャレンジしていこうといった前向きでやる気に満ちたコメントが多数認められた。

茨城地本は、本研修を受け入れてくださった新潟地本及び佐渡駐在員事務所と茨城地本広報官らのやる気に火をつけてくださった伊藤曹長に感謝するとともに伊藤曹長から得た知見を資として、厳しい募集環境下、目標達成に向けて邁進していくとしている。



茨城地本広報官に説明中の
伊藤広報官（立談）

施設学校橋爪医官、並木中等教育学校で講演

茨城地本土浦地域事務所（所長・嶋貝1等陸尉）は、令和8年2月13日（金）茨城県立並木中等教育学校において、施設学校（学校長・吉春陸将補）医官橋爪勲実1等陸尉の協力を得て講演会を実施した。

橋爪医官は、同校医学コースの生徒32名に対し、防衛医大の教育及び学校生活等、自衛隊における教育訓練、部隊勤務、医官としてのやりがい、キャリアパス等について、自らのリアルな経験に基づき懇切丁寧に説明した。

参加した生徒は皆真剣な眼差しで橋爪医官の誠実な説明に聞き入っていた。説明後、生徒からは、防衛医大卒業後自衛隊を辞めた場合の進路上的な制約について質問があったほか、聴講していた複数の教諭からも、医師として最も重要な資質や大学医学部の面接試験での対応要領等について質問があり、活発な質疑応答が繰り広げられた。

講演後、回収したアンケートによれば、生徒達全員が本講演に「満足した」と回答し、「防衛医大のリアルな話が聞けてとてもためになった」「ネットで知ることができない話が聞けて防衛医大に対するイメージが変わった」「自衛隊の訓練や体力検定の話が聞けて有意義であった」など防衛医大等防衛省・自衛隊への理解を深めることができた。

茨城地本は、本講演に協力してくださった橋爪医官及び施設学校関係者に深謝するとともに、今後も県内の学校や部隊と協働して、厳しい募集環境下、目標達成に向けて邁進していくとしている。



並木中等教育学校で講演する
橋爪医官（施設学校所属）